

見て、体験して、学ぶ。空知署の森林環境教育 ～人材育成を交えて～

北海道森林管理局 技術普及課 課長補佐（旧 空知森林管理署）
○木村 雅代
北海道森林管理局 空知森林管理署 森林情報管理官 ○山下 勇氣
北海道森林管理局 空知森林管理署 治山グループ ○土屋 美月

1 課題を取り上げた背景

空知署では、森林環境教育の要望が教育機関だけに留まらず、就労継続支援施設などの年齢・目的が千差万別の依頼が増加しています。実施に当たっては、参加者がわくわく楽しみながら森林・林業に興味を持つきっかけとなるプログラムの提供と併せ、森林環境教育を実施できる職員の人材育成も必要と考えました。今回は、管内の特徴的な森林での開催や実際に行っている業務の体験など参加者目線のプログラムと、誰もが講師になることができるように若手職員の人材育成も交えて取り組んだ活動を整理しました。

2 取組の経過

【事例①】遊びながら学ぶ（写真1）

対象者 小学生 45名（1班6名）
場 所 利根別自然休養林（岩見沢市）
要 望 自然とのふれあいを通じた楽しみながら実施できる自然体験活動
内 容 ・冬芽観察・輪尺で木を測る
・松かさの宝さがしゲーム



（写真：1 森林クイズの様子）

工夫点 立ち寄りポイント毎にクイズやゲームを用意し、林業道具を使用した業務体験も交え、森林・林業に興味を持ち、楽しみながら学んでもらう活動を実施しました。

【事例②】体験型学習（写真2）

対象者 高校生 80名（1班8名）

場 所 長沼防風林（長沼町）
要 望 地元の自然と地域の活性化について考え学ぶことができる林業体験
内 容 ・防風林効果の説明・植樹体験
工夫点 防風林の効果が学べるように模型を用いて説明し、クイズを交えて森林整備への理解を促し、当署で実施している凸型防風林整備を体験してもらいました。



（写真：2 植樹体験の様子）

【事例③】森林を感じる（写真3）

対象者 保育園児及び障がい者等 40名
場 所 南部林道（夕張市）
要 望 就労継続支援施設の通所者が実行委員となり地域の行事を企画。企画の1つとして森林散策会の実施
内 容 ・フィールドビンゴ
・葉っぱでじゃんけん
工夫点 男女や世代の混じった班を作り参加者に合わせた森林散策やバードコールの音色を楽しむ等、森林とのふれあいを重視しました。



（写真：3 フィールドビンゴの様子）

3 実行結果と考察

参加者目線のプログラムを提供した結果、活動の喜びが伝わってくる感想が多く寄せられました。また、全事例において、不慣れな若手職員がリーダーとして森林環境教育が行えるように、クイズ形式を取り入れ、ベテラン職員がサポートすることで森林・林業の基礎知識の取得やコミュニケーション能力の向上につなげることができました。一方課題として自然に関心が薄い高校生への指導など難しい側面も見えてきました。今後も多様な参加者の感想に耳を傾け、参加者目線に合わせた活動を目指していきたいと考えます。